



# The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER,2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

- 国際会長主題 「価値観、エクステンション、リーダーシップ」
- アジア会長主題 「変化をもたらそう」
- 東日本区理事主題 「未来に向けて今すぐ行動しよう」
- あずさ部部長主題 「変わるに挑戦！」
- 東京西クラブ会長主題 「楽しく、元気で、そして仲間を迎えよう！」

2022年11月号  
NO 554

イエスは答えて言われた。「神の国は、見える形では来ない。「ここにある」「あすこにある」と言えるものでもない。実に、神の国はあなたの方の間にあるのである。

新約聖書ルカによる福音書17章20-21節

## WHOウォーキング25周年記念日 吉田 明弘

今年の11月1日は、WHOウォーキングの25周年でした。1997年11月1日、調布の武者小路実篤記念公園から深大寺まで8人で歩いたのが、第1回でした。

その頃、東京YMCAは事業見直しを行い、小センターの閉鎖、統合を進めていて、杉並センターもその対象でした。

主事に負担をかけず、自前の施設を使用しない、だれでも参加しやすいプログラムとして東京西クラブ有志が婦人フィットネスクラブにはかり、杉並センター運営委員会に提案したのが、ウォーキングプログラムでした。「ウォーキング・ホリデー・荻窪(WHO)」というネーミングには強いこだわりがありました。

WHOを始めた1年の9月末、杉並センターは施設、スタッフを失いましたが、WHOやフィットネスクラスにはプログラム上の支障はありませんでした。

WHOウォーキングは、その後順調に参加者数が増加しました、2014年頃から50人を超えるようになり、2016年に60人を超えたので、危険回避、現地の人迷惑等を考慮し、宣伝を控えるようにしました。コロナで中止をしましたが、再開後は、順調に回復して、旧に復するでしょう。

今、問題は、リーダー、スタッフ不足。参加者は若返るのにスタッフは変わらず、当初から4人も亡くなっているのです。幸い他クラブの現役ワイズとOBに助けられています。YMCAの主事卒業生で野外活動が得意だった方に声をかけて、良い感触も得ています。杉並センターのリーダーOB、OGにも連絡をとろうともしています。杉並センター発足当時のリーダーは、リタイヤ世代、杉並センターが施設を失ったときのリーダーが、40代半ばなのです。ワイズからの助っ人を得ることが、25周年の最大の課題です。



## WHO野川シリーズ⑥ 成城から次太夫公園へ

WHOウォーキング「野川シリーズ」⑥は、11月26日(土)、小田急線成城学園前駅集合です。

都内有数の住宅街とタヌキとの関係をいぶかしく思われる方もおられると思いますが、成城の町の垣や塀に、「タヌキに注意」のポスターが掲示されています。成城の町の西側は野川と國分寺崖線(ハケ)があり、そこには、多くの動植物の命が息づいているのです。

詳しくは、P4のご案内をご覧ください。

### クラブ役員

- 会長 高嶋美知子
- 副会長 吉田 明弘
- 書記 本川 悦子
- 会計 篠原 文恵
- 担当主事 横山 弥利

10月の記録			ニコニコ	5,300円
在籍者数 12人 (内功労会員) 1人	メネット	1人	クラブファンド	0円
出席者数 10人	コメント	1人	ファンド残高	114,715円
メーカーキャップ 1人	ビジター	1人	ホテル校ファンド	0円
出席率 100%	ゲスト	0人	ホテル校残高	26,650円
内Zoom参加 0人	出席者合計	12人	WHO参加者	41人

## 11月例会のご案内

## 強調テーマ：100周年祝賀、 Building Fellowship (BF)

今月の卓話は、大相撲元中村部屋親方夫人（おかみさん）の、中澤嗣子さんをお招きしました。嗣子さんは、大学卒業の翌年、大相撲の後の関脇、富士桜関と結婚されました。関取は、突き押しで“突貫小僧”として人気があり、75年秋場所の天覧相撲の麒麟児関との取り組みは壮絶な戦いとなり、昭和天皇が思わず身を乗り出したと、いまだに語り継がれています。引退後、中村部屋を創設。そのため嗣子さんは部屋の“おかみ”として、まったく未知の世界に入られました。今は引退されていますが、その間、見てきたこと、感じられたことなどをお話いただきます。

今回は、あずさ部後藤明久部長の公式訪問があります。

日時：11月17日(木) 18:30~20:30

会場：ウエルファーム杉並 03-5335-7318

会費：1,500円（食事代として）

受付 吉田 明弘  
鳥越 成代  
司会 村野 絢子  
高嶋美知子会長

開会点鐘  
ワイズソング 静唱 一同  
聖句朗読・祈祷 司会者  
会長挨拶とゲストご紹介 会長  
あずさ部長挨拶・報告 後藤明久部長（富士五湖）  
会食

### 卓話 「相撲部屋のおかみさんの見て感じた世界」

ハッピー・バースデー

お客様を交えてお祝いしましょう。

諸報告 会長  
YMCA 報告 横山 弥利  
ニコニコタイム 一同  
閉会点鐘 会長

担当：B班（吉田、鳥越、村野）

参加申し込み：11月13日中

090-5761-7455（吉田）

## —10月事務会報告—

日時：10月27日（木）

17:00~18:30

会場：東京 YMCA 山手センター

出席者：石井、大野、河原崎、

篠原、本川、村野、吉田

<報告事項>

- ①10月通常会計報告を承認した。
- ②併催されたあずさ部部大会と富士五湖クラブ20周年記念例会に石井、大野、篠原、本川、村野が参加した。

- ③メンバーの神谷幸男さんが11月26日、千葉ウエストクラブで卓話をする。

<協議事項：例会関係>

- ①11月例会に後藤明久あずさ部長の公式訪問があることを確認した。
- ②12月のクリスマス例会は納涼例会と同じ会場、荻窪「ビストロ天下井」で行なう担当班の提案を承認し、細部は担当C班（神谷、河原崎、本川、横山）に一任した。
- ③1月、2月の卓話は、担当班の提案を待つ。

④3月の東京世田谷クラブとの合同例会については、今年度は当クラブの担当であるが、担当班が先方に確認する。卓話は候補が挙がった。

⑤部を通じて請求のあった諸負担金について、金額を確認して期日までに納付する。その際、質問、要望を文書で呈出する。文案については、11月事務会で検討する。（書記・本川悦子）

### 長谷川あや子前あずさ部長 エルマークロウ賞受賞

2021年度の国際表彰が発表され、長谷川あや子直前あずさ部長（東京八王子）が、エルマークロウ賞の受賞が決まりました。この賞は、年度において各区内でもっとも活躍した部長に贈られる賞です。西日本区では、直前京都市長中村隆司さん（京都ウエル）が受賞されます。

国際ブースター賞については、クラブとして年間6人以上の会員を増加した甲府21クラブ（10人）。個人としては、年間10人の

## 卓話者紹介

### 中澤 嗣子(なかざわつぎこ)さん

1951年愛知県に生まれる。1974年金城学院大学英文科卒業。1975年、当時の高砂部屋力士、富士桜関（後の中村親方）と結婚。中村部屋の創設と共に“おかみさん”となる。

1999年、東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科（教育専攻）に入学。2003年、「今日の力士養成のあり方」をテーマに研究して論文を発表し、博士号を得る。

入会者を紹介した宮岡宏実さん（甲府21）が表彰されます。宮岡さんは、3年前に卓話の米長晴信さん（甲府21）応援団として来会され、新入会員として紹介された方です。

<チャレンジ22クラブ賞>昨年度の会員増強100日間キャンペーン期間中に各区の中で最も新入会員を獲得したクラブは甲府21クラブで、10人でした。

（吉田明弘）



11月例会。楽しく汗もかいて。講師佐藤節子さん（前列左から3人目）と

## 脳をくすぐられた！ —10月例会報告—

10月20日（木）、久しぶりに厚木クラブの佐藤節子さんを迎えての例会になりました。高嶋会長が検査のため欠席され、吉田副会長の開会点鐘でスタート。佐藤さんの幾つもの肩書きの紹介があり、この方はすごい、感心させられる。食事をし、しばらく歓談、そして佐藤さんの軽快な卓話が始まり「脳をくすぐる、心もカラダもスッキリ！脳トレしながら背骨の矯正」等々がスタート。

2枚のレジメが配られ1枚目は今日行う5つの項目があり、その全部を書くことが出来ませんが、1つだけ例として書きますと、自分のからだの歪みを知る（アッと驚く中指の不思議）体をひねる運動とあり、実際に体を動かしてみました、大変たいへん。

今回行ったものを映像で残しておけば、後でまた見て運動が出来たのではと残念に思いました。2枚目のレジメには歌が書かれていました。「いちかけ、にかけ、さんかけて、しかけ、ごかけ、橋かけて」、この歌に合わせてリズム運動など約1時間ほど体全体を動かしました。楽しく疲れを感じた例会でした。

それにしても指導される佐藤さんの軽快な動きには関心させられました。（大野貞次）  
出席者：＜メンバー＞石井・大

野・神谷・河原崎・篠原・鳥越・本川・村野・横山・吉田、＜ゲスト＞佐藤節子（厚木・卓話者）、＜メネット＞神谷、＜メイキャップ＞高嶋（9月事務会）

## “BF”の正式名称の変更

11月は、“BF”の強調月間ですが、今年度から正式名称が、「Brotherhood Fund」から「Building Fellow」に変更になりました。略号の「BF」はそのまます。

「BF」は、メンバーが集めた使用済み切手を換金したり、現金を拠金するなどした基金を用いて、ワイズメン間の交流や、ワイズ運動のリーダー養成をはかってきました。この基本方針は変わりません。「Brother」という語を現代的に言い換えたものでもあるようです。（吉田明弘）

## 富士五湖の20周年と共催 あずさ部部大会報告

不規則だった天気もようやく秋らしくなった10月15日（土）、あずさ部部大会と富士五湖クラブ20周年記念例会を兼ねて、富士山のふもと忍野村で開かれ、高速バスの遅れで途中入場となりましたが、会場には70人以上が着席されていました。

区理事・佐藤重良さん、YMCA総主事・中田純子さんの祝辞などのあと IYC 参加補助金贈呈式が

あり、地元フォークデュオによる懐かしいフォークソングが披露されプログラムの1部が終わりました。

会場の玄関先で集合写真やクラブごとの記念撮影の後、第2部として富士五湖クラブの20周年祝会が和やかに始まりました。

司会は武藤五子さん、三浦洋美さんが上手に進行され、富士五湖クラブの人材の豊かさを知り、20年の同クラブの活動の様子をスクリーンで思い出すことができました。

中盤では富士五湖クラブ提供の色々なグッズの抽選会で大いに盛り上がり、賑やかな祝会はそのまま2次会に移行していきましたが、われわれ東京からのメンバーは河口湖の紅葉を見ながら帰路につきました。参加者は石井、本川、村野、篠原の4人でした。

（篠原文恵）

## 神谷さんが卓話 千葉ウエストC例会で

神谷幸男さんが、千葉ウエストクラブの11月例会に招かれ、卓話することになりました。同クラブは、2020年10月に加盟しました。満2歳です。

神谷さんは、当クラブの「発会後の歩み」について話されます。

例会は、11月26日（土）14:00～16:00、船橋市北本町の日本基督教団船橋教会の信徒会館で行なわれます。当日はWHOウォーキングの例会日ですが、都合の付く方は随行して下さい。参加できる方は、神谷さんと連絡をとってください。（吉田明弘）

## 東京八王子クラブ例会訪問



学生11人が参加した東京八王子クラブの例会

## タヌキも住人？ 成城の町 —WHO 11月案内—



みつ池緑地のハケの森林

世田谷・成城といえば、都内でも有数な住宅街。野川下りとは無縁に思えます。しかし家々の垣には「タヌキ注意」のポスターが目立ちます。なぜ？ 町の西には野川と國分寺崖線があり、多様なのが息づいているのです。そんな町と、野川沿いにある江戸時代に16年かけて開削された六郷用水（次太夫堀）の面影を訪れます。

期日：2022年11月26日（土）

コース：小田急線成城学園前駅—成城の町並み（イチョウ並木）—成城大学—猪股庭園住宅—旧山田邸—富士見橋—不動橋—きたみふれあい広場（昼食）—雁追橋—次大夫堀公園—次大夫堀民家園—喜多見大橋—成城三丁目緑地—小田急線成城学園前駅

集合・出発：小田急線成城学園前駅・北口 10：00

解散：同上 14：30頃

携行品：名札、健康保険証、マスク、弁当、飲料水、雨具、パンフレット「野川マップ」

参加費：300円、初参加の方は名札代200円（必ず着用）

## 農の調布と川の調布 —WHO 10月例会報告—

10月例会は22日、京王線調布駅前を出発。途中合流を含めて41人が参加。コースは、前回降雨のため打ち切った部分を最初に含めました。どうしても“農村だった調布”の面影を訪ねたかったのです。

路線バスで八雲台へ。野川の流路変更と改修で不要となり保存されている旧榎橋の欄干が小さ

な見どころです。石造でした。現在の榎橋から野川を遡ります。農業の神として崇められた虎狛神社は589年の創建、祇園寺は古刹深大寺を開基した満功上人によって創建されたと伝わります。付近には、ネギ、ダイコン、サトイモなどの畑、秋播きの準備か、畝寄せがされている畑もあります。日本で最初の甘柿とされる禅寺丸柿の子孫の大木を見ました。

ここから野川を下り、甲州街道、京王線鉄道を越えます。ここまでが9月分でした。ハケの湧き水がそそぐ川は澄み沿道からコイの影が見えます。野川橋で小休憩。コンビニで昼食を買う人、トイレを借りる人。



調布深大寺と同時期に創建された祇園寺

ここから昼食予定の「きたみふれあい広場」まで4km強、遅い昼食を予定していましたが、急遽、途中のスリバチ公園に前倒し。40分の食事休憩をとりました。最終目的地、きたみふれあい広場は、小田急電鉄の車輛基地の屋上を地盤化し、高さ10mほどの丘にして、屋上に林、花壇、池、芝生広場になっています。東にハケの森の連なり、西に富士山をはじめ丹沢などのやまなみが望めました。全員完歩を確認して、ここで解散して、それぞれ小田急線喜多見駅に向かいました。とにかく歩きづめ。もう少しゆったりと皆で共に過ごす時間があつたらと反省しました。（吉田明弘）参加者41人。ワイズ関係参加は、石井、河原崎、本川、吉田（東京西）、中澤正子（東京たんぼぼ）、樋口順英（東京グリーン）、関喜一郎（元石巻広域）。

## YMCA Today

■山手センターの「山手の祭り」が11月3日（木）に3年ぶりに開催されました。お楽しみ抽選会が行われ、1枚100円のラッフル券はキャンプリーダー養成の募金に充てられます。

ホテル学校からは、高校で吹奏楽部に在籍していた学生有志と教務スタッフで「YMCA交響楽団」と称し、楽器演奏を行いました。

■今年もインターナショナル・チャリティーランは、歩数計アプリを利用したウォーキングイベントとなりました。ホテル学校も学生と教務スタッフ合わせて20人で9日間のチームレースにエントリーしました。今回は46チームが参加。10月22日（土）に始まり、4日目時点でホテル学校は24位です。

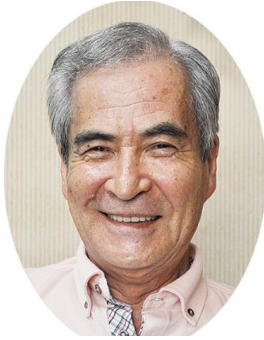
■WHOウォーキングは再開されていますが、他のウォーキングイベントも始まりました。11月3日（木）に秋の多摩森林科学園・八王子城跡ウォーク（ペタペタの会）が行なわれ、11月23日（水）には江戸城ファミリーウォーク「動乱の幕末を歩く」があります。

■会員と職員の意見交換や交流の場として会員部が主催している「東京YMCAソシアス2022」が、今年度はオンラインの講演会形式で開催します。11月20日（日）14:00～16:00、参加費無料です。琉球放送初代アナウンサーの川平朝清氏を講師に「沖縄復帰50年と平和について」沖縄の歴史と現在、そして平和の問題を学びます。世代や立場を超えて、ともに平和について考え、意見を交わし、小さくても私たちにできることを探っていきたいと願っています。東京YMCAの会員・職員に限らず、ご参加いただける会としていきます。

「YMCAソシアス申込」で検索後、HPから申込が出来ます。

担当主事 横山弥利

☆☆☆インタビュー☆☆☆111☆☆  
**峯尾舜(ゆずる)さん**  
 金沢八景クラブ  
 \* \* \*



—いきなりですが、峯尾さんは野球をやっていませんでしたか。

「高校までやっていましたが…」  
 一体型から野球かなと。それに峯尾さんの子ども時代は、やるスポーツが限られていましたから。

「そうですね。三角ベースの野球に夢中でした。本格的に始めたのは中学からです。1年の時のクラス担当の先生が野球部の部長で、『伝統ある野球部を復活させたい。部員を最低10人集めて欲しい』と言われ、渋々、夏休みに友達の家を訪ね、私を含めて17人が入部しました。戦績はどの大会でも準決勝止まりでした。高校は、地元の公立高校へ進み、3年間白球を追いました。神奈川県ベスト8が最高でしたが、地区に甲子園で春夏連覇した法政二高をはじめ強豪校が揃う中では、大健闘だったと自負しています」  
 —お生まれは、金沢八景ですか。

「戦後の1947(昭和22)年、現在地で生まれました。幼少期は、よく言えば“のんびり”、“おっとり”。逆に見れば、“ぼんやり”だったのでしょか。皆から『ボータン』と呼ばれていました」  
 —小学校での得意な科目とか。

「4年生の時、県の写生コンクールで県知事賞に選ばれました」  
 —中学、高校では。

「生徒会長に立候補しろと言われて、タイプでないのですが、やりました。高校では、歴史教師に抗議したのに改めないで、1年間、授業中に机に何も置かなかった

ことがありました。1年の3学期には、校長に呼ばれました。部屋に6人の教師がいて、『君は成績が急降下している。野球部を辞めなさい』。帰宅して父に話すと、『野球は続けろ。やれるのは今だけだ。皆と一緒にやり遂げろ。お前の教育の責任は俺にある。1年2年浪人しても構わない』。翌日、学校でそう伝えたら『分かった』とだけ言われました。私は、70年安保世代です。大学時代は授業を受けず雀荘に通っていました。将来については、教師になって生徒に野球を教えようか、好きな歴史をさらに研究するために大学に残ろうか、祖父の時代からの事務所を継ごうかなど漠然と考えていました」

—その結果は。

「大学卒業と同時にゼネコンに就職し、現場管理を約16年、営業を4年、計20年のサラリーマン生活をしました」

—県議もされたと聞きましたが。

「県議だった父が8期目に倒れ、後援会が私を推したのです。私自身は自分には向かないし、世襲に疑問をもっていましたから断ったのですが、結局、立候補して、当選しました」

—どうして金沢八景にワイズメンズクラブをつくろうと。

「中学の野球部同級生が、横浜とつかクラブの浦出昭吉さんの従弟で、YMCAをサポートするという条件があるが、青少年の健全育成を目的とするワイズメンズクラブを立ち上げるからとの相談がきっかけでした。YMCAセンターが金沢八景にあるのは知っていましたが、英語塾だろう程度の認識でした。時間的にも経済的にも少し余裕が出来た時だったので、クラブ立ち上げを決意しました。まず野球部の仲間、そこから、中学の先輩、後輩に輪を広げていきました。そうした経緯からメンバーの大半は金沢区在住で地域密着型です。20世紀後から、『いじめ』、『学級崩壊』、『児童虐

待』などが、大きな社会問題になっていました。皆の気持ちが、ワイズの信条『青少年のために尽くそう』と合致したのだと思います。クラブとしてこだわったのは、ボランティア活動に対する思いには、個人差があるので、それをおのおのが理解して無理強いはしない、クラブの方針や決定は守り、後で不平、不満を言わない、役職は輪番制で対応しクラブに対して個々の意識を高める、です」

—金沢八景クラブは、地域の小学生のミニバスケット大会を主催されていますね。

「ミニバスケットは、標準よりもコートが一回り狭く、リングは20cm低いのです。35年ほど前、指導者から会長を頼まれ、金沢区ミニバスケット連盟をスタートしました。2006年に金沢八景クラブが誕生し、その年の7月からスポンサーとして大会運営費約15万円を負担して、大会を主催するようになりました。コロナで休みましたが、今年は3年ぶりに7月に『金沢八景ワイズメンズクラブカップ(通称七夕カップ)』を行ない、熱戦の様子は、神奈川新聞で取り上げられました」

—ワイズに対する提言は。

「内向き過ぎます。区大会の表彰にしても献金額や切手の枚数ばかりが対象になります。もっと、YMCAや地域に対する自ら汗を流す奉仕に目を向けたいと思います。また、若いメンバーの入会促進、ワイズにはYMCAという絶好なバックがあるのですから、YMCA担当主事、ヤングリーダーの代表とクラブで委員会を設け、相互理解を深めながら、新メンバーの入会について協議すべきだと思います」

—座右の銘など、なにか勝負どころで心に浮かぶ言葉は。

「臥薪嘗胆。いつも笑顔、誰とも平等に、陰口は言わない、です」  
 —有難うございました。

(吉田明弘)

## 思い出を辿って⑪

シャーリー・ジュティン  
(Shirley Juten)さん  
村野絢子

1884年、カナダメソジスト教会の婦人宣教師マーサ・ジュリア・カートメル (Matha Julia Cartmall) によって東洋英和女学院が創設された。以来2006年まで多くの婦人宣教師(ミSSIONナリー)が派遣された。その中で和泉教会のメンバーでもあるジュティン先生との思い出は尽きない。

ジュティン先生のルーツはスウェーデンで、アメリカの福音教会から派遣された教育宣教師。東洋英和の短大で保育科の教授として43年間お働きになった。退

職後は私が会員である和泉教会の協力宣教師として日本の永住権を取得された。今は95歳になられ、榛名の新生会の誠の園で静かに過ごされている。

先生はミネソタ州のドゥルースで生まれ、小学校を卒業する年のサマーキャンプで「宣教師になりたい人はいますか」と問いかけられた時、手を挙げた一人であった。「これがその後の進路の出発点だった」と話される。1991年9月、和泉教会で「ミネソタの旅」が計画されジュティン先生を含め15人が参加した。先生を派遣して下さったドゥルースの母教会にお礼に行く事も目的の一つだった。幼児教育の教授だけでなく、友人と甲子園の高校野球を見に行き、私たちとYMCAの山中湖の家族キャンプに参加し、教え

子のお琴の演奏会を応援し、引退後に住んだ北軽井沢では「シャリばあ」と小さい人たちから呼ばれて、いつも喜び楽しんで豊かな生活をされた。教会の週報も毎月まとめてお送りしているが、コロナでお訪ねできないのが寂しい。私も結婚して和泉教会に転入して50数年、今も先生に多くの教えを頂いている。



写真…ジュティン先生(右)と筆者

## p 3・3列目から

10月8日(土)東京八王子クラブの10月例会に出席しました。

卓話は元外交官・駐米大使の竹本正美さんでした。

卓話は「日本外交の重要性」と題して外交の重要性、外交の質が最も重要であると話されました。

外交において最も重要なことは、①戦争にならないようにすること。②いかに負けない戦争をするか。③戦争をいかに早くやめるか。この3点について、特に太平洋戦争において日本が経験したことを踏まえて事例を挙げながら話されました。かなり思い切った内容でした。

この例会には、後藤明久あずさ部長の公式訪問でしたので、ホームクラブの富士五湖クラブから6人の応援団が随行しました。また卓話に関心があったためか中央大学の「ひつじ雲」の学生が11人出席していてとても多くの参加者でした。

クラブからは篠原・本川・吉田さんが参加しました。ゲスト、ビジターを含めて35人の大きな例会でした。(本川悦子)

## 東京グリーンクラブ例会訪問



ホテル専門学校校長の卓話

10月19日(水)夜、東京YMCA東陽町センターで行なわれた東京グリーンクラブの例会に出席しました。同クラブは、再開する『神田川船の会』を目前とした忙しい時期でした。

食事は、東京西クラブとは違い大きなお弁当でした。

卓話は、私たちにはおなじみの東京YMCAホテル専門学校の小畑貴裕校長で、最近の日本のホテル業界、各種専門学校の動向、海外からの留学生の変化、それらからみなど、大変興味深く聞きました。また、“レア”の話題として、観光立国を目指す国への協力関係の模索など、夢のある話も出ました。

ビジターを含めた例会出席者は、10人でした。(吉田明弘)

## 編集後記

いろいろな機会に他クラブのメンバーと会って親しく話すと、「何か違うな」と感じる場合があります。ワイズとしてクラブに対する思いは人それぞれですから、これは当然です。もうひとつクラブが生まれてきた状況やその地の環境によっても随分違うようです。これが同じワイズメンズクラブなのかと思うこともあります。話をしながら、お互いに違いを感じ合っているということでしょう。でもこれは、否定することなく、それぞれの地で生きている証でもあるのでしょうか。

今年は10月から11月にかけて私たちのクラブからの他クラブへ訪問が増えています。東京八王子、富士五湖、東京グリーン(例会と神田川船の会)、千葉ウエスト、それに東京多摩みなみのプランター野菜作り講座。こんなに多いことは、記憶がありません。

せっかくの体験をクラブ内で分かち合い、他クラブからもビジターを迎えたいですね。来月号のブリテンの報告が楽しみです。

(AY)